



あぐりあす

第289号

～ 掲 載 内 容 ～

ページ

1 久慈地域の情報

○普及現地情報

・・・1

- ・地元高校生たちがブロッコリー圃場の視察を行いました！
- ・第1回ヤマブドウ栽培技術研修会を開催しました！
- ・手打ちうどん「いげばっと」を作ろう～小学生への郷土料理伝承会開催～
- ・第29回全国闘牛サミット in 久慈大会記念闘牛大会が開催されました！

2 お知らせ

○「白銀のひかり」栽培志向者向け研修会

・・・5

- ・令和7年度から久慈地域でも本格的な生産が始まっている
岩手県オリジナル水稻新品種「白銀のひかり」について、
新たに生産・出荷を希望される方を対象とした研修会を開催します。

○あぐりあす 鳥獣被害防止特集コラム(第1回)

・・・7

- ・鳥獣被害防止の基本「よせつけない・まもる・とる」について
ご紹介します。

○農作業中の熱中症を予防しましょう

・・・別添

- ・こまめな休憩と水分補給、無理のない作業を心がけましょう。

○令和8年度 農薬危害防止運動実施中

・・・別添

- ・使用基準を守り、安全な農薬使用を行いましょう。

○岩手県立農業大学の概要について

・・・別添

- ・令和8年度の概要をご紹介します。

○新鮮いわて農業チャレンジ体験研修 参加者募集！

・・・別添

- ・選べる2コースで、岩手県内の様々な農業法人等で、
最長5日間、農業体験ができます。

《久慈》地元高校生たちがブロッコリー圃場の 視察を行いました！

5月19日に岩手県立久慈翔北高校3年生12名を対象としたブロッコリーの農業現場視察を行いました。

はじめに、普及センターから久慈地域でブロッコリー栽培が拡大した経緯や栽培のしかたについて説明を行いました。

その後、ブロッコリー生産者の新山麗佳氏の圃場へ移動し、実際の栽培の様子について説明を受けました。新山氏からは栽培時期ごとの管理の難しさや、実際農業に取り組んでみて楽しかったというお話を伺うことができました。高校生はメモを取りながら真剣に説明を聞き、個別に質問をする姿も見られ、農業への関心を高めている様子がうかがえました。

また、同校ではブロッコリー栽培にも取り組んでおり、今回の視察を通じて学びを深める機会となりました。

普及センターでは、農業への興味・関心の向上や次世代の担い手育成に向けた支援を継続します。



ブロッコリーの圃場を見学している様子

普及現地情報
令和8年6月1日
久慈農業改良普及センター
記述者 中野碧衣

第1回ヤマブドウ栽培技術研修会を開催しました！

久慈地方ヤマブドウ振興協議会（会員9名）では、栽培技術の向上と生産者の相互交流、ヤマブドウの生産振興を図るため、栽培技術研修会を年4回開催する予定です。

第1回研修会は、5月28日に野田村内のヤマブドウ新植ほ場で行われ、生産者や関係者18名が参加しました。

研修会では、普及センター職員が講師となり、令和8年の気象経過と生育状況、今後の栽培管理や病害虫防除で特に確認する時期と注意点について説明しました。

その後、鳥獣被害対策に係る現地課題の共有及び意見交換を行い、現在の被害状況や、昨年被害が多かった鳥類やシカ、ハクビシン、クマ等について各園地でどのような対策を講じ、その効果や課題はどうであったかといった情報交換が活発に行われました。

今後は、夏季管理やせん定等に関する研修会を開催する予定です。普及センターでは今後も生育状況や鳥獣害の発生状況を確認し、関係機関と連携しながら、栽培管理や被害対策に関する情報共有等を行っていきます。



研修会の様子

手打ちうどん「いげばっと」を作ろう ～小学生への郷土料理伝承会開催～

久慈地方農業農村活性化推進協議会では、6月3日に、久慈市大川目小学校の6年生8名を対象として食の匠による郷土料理伝承会を開催しました。

今回は、澤口ゆう子さん（久慈市侍浜町）に、食の匠認定料理の「いげばっと」を教わりました。

「いげばっと」は、手打ちうどんのことで、地域の人が集まる行事があった際にお振舞のお膳の最後の料理として出されていました。方言で「いげ」＝「帰れ」と「はっと」＝「麺類」を組み合わせた料理名で、これを食べた客は家路につきました。

児童たちは、澤口さんに水加減やこね方、生地伸ばし方等のコツを教わり、「丁度よく」という意味の「あんばいよく」という言葉を口にしながら、協力して調理を行っていました。

児童たちは普段から料理をしているようで、手際が良く、食の匠の皆さんもびっくり！

出来上がった「いげばっと」を食べた児童たちは、「手打ちうどんは初めて作ったけど、楽しく作れた」、「家でも作って食べたい」、などと感想を話し、地域の食文化を知る貴重な時間となったようでした。



澤口さんに教わりながら
作る児童たち



完成した「いげばっと」

第29回全国闘牛サミット in 久慈大会記念闘牛大会 が開催されました！

令和8年6月14日に久慈市山形町の平庭高原闘牛場で、全国闘牛サミット協議会主催の第29回全国闘牛サミット in 久慈大会記念闘牛大会が開催され、久慈市や新潟県から集結した闘牛と勢子衆が繰り広げる熱い戦いを見ようと、3000人を超える観客が訪れました。

本大会は、闘牛文化を持つ久慈市、新潟県長岡市・小千谷市や沖縄県うるま市等の全国9自治体が持ち回りで毎年、開催しているものです。

当日は、取組の合間に、各自治体のPRも行われ、管内からは県北広域振興局農政部が県オリジナル水稻品種「白銀のひかり」のブースを設置するとともに、「白銀のひかり」を使用したお弁当を来賓に配布しPRしました。

久慈農業改良普及センターでは、「白銀のひかり」の栽培指導と共に、今後も関係機関・団体と連携した牧野の管理支援を通して、短角牛生産を支援していきます。



取組中の会場の様子



「白銀のひかり」PRブース

「白銀のひかり」栽培志向者向け研修会

令和7年度から久慈地域でも本格的な生産が始まっている岩手県オリジナル水稲新品種「白銀のひかり」について、新たに生産・出荷を希望される方を対象とした研修会を開催します。



日時、場所

日時：令和8年7/22(水) 13:30～14:30
場所：新岩手農業協同組合 久慈営農経済センター
2階大会議室



内容

- (1) 「白銀のひかり」の特徴と生産について
- (2) 「白銀のひかり」を作付けするための要件について
- (3) 試食

対象者

久慈地域で主食用米を生産・出荷しており、今後「白銀のひかり」の作付けを検討している方



申込先

久慈農業改良普及センター産地育成課 (電話：0194-66-9683)
(FAX：0194-53-5009)

申込期限

令和8年7月16日(木)

その他

- (1) 研修会への参加は、事前申込制とします。申込みの際に、氏名や連絡先、主食用米の作付・出荷状況等いくつか確認を行いますので、御了承願います。
(ご提供いただいた個人情報は、本件以外の目的には使用しません。)
- (2) 「白銀のひかり」を作付けするためには作付経営体登録が必要であり、前年に主食用米の販売実績があること等、いくつかの要件を満たす必要があります。(要件については、研修会でも説明します。)
- (3) 当日15:00頃から現地研修会(大川目「白銀のひかり」ほ場)を行う予定です。

F A X 様 式

令和 8 年度「白銀のひかり」栽培志向者向け研修会 参加申込書

＜申込期限：令和 8 年 7 月 16 日（木）＞

久慈農業改良普及センター 戸田 あて

FAX 番号： 0 1 9 4 - 5 3 - 5 0 0 9

E-mail： n-toda@pref.iwate.jp

1 参加者情報

市町村名： _____

氏名： _____

電話番号： _____

2 主食用米の作付・出荷状況

主食用米の作付面積： (_____) ha / a

主食用米の販売・出荷の有無： あり なし

米検査の実施状況： 実施している 実施していない 不明

主な出荷先： JA その他 (_____)

3 その他

事前に確認したいことがあれば記入してください。

例) 栽培管理や作付要件について

- ※ 申込みの際に取得した個人情報は、本件以外の目的には使用しません。
- ※ 当日は、報道機関による取材が入る場合があります。撮影等に支障がある場合は事前にお伝えください。

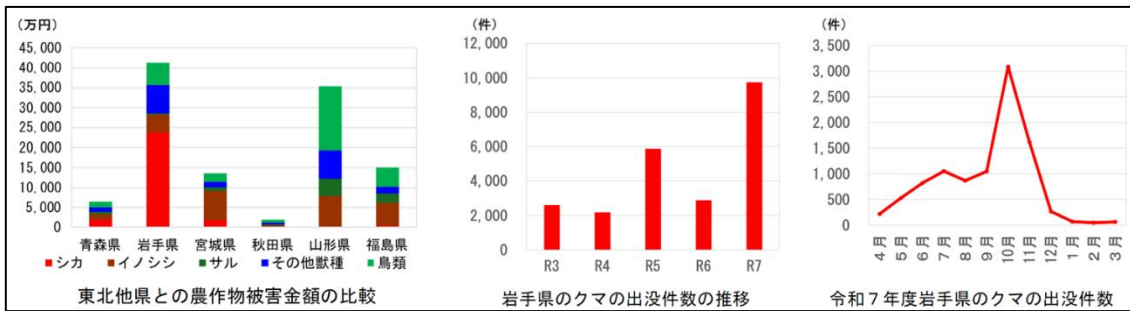
あぐりあす 鳥獣被害防止特集コラム（第1回）

鳥獣被害防止の基本は「よせつけない・まもる・とる」

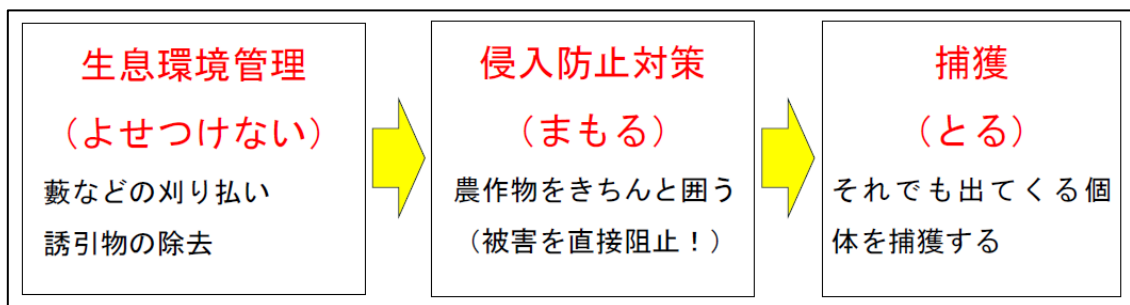
（岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当 資料より抜粋）

畑や庭先の近くでシカを見かけたり、クマの出没情報を耳にしたりして、不安を感じる方も多いのではないのでしょうか。

岩手県では、令和6年度の農作物被害額が東北で最も多く、特にニホンジカによる被害の割合が大きい状況です。とくにクマの出没は、多くの方が心配されているところです。こうした中、鳥獣被害対策というと「まず捕獲」と考えがちですが、被害を減らすためには「よせつけない」「まもる」「とる」の3つを組み合わせる進めることが大切です。今回は、その基本的な考え方を紹介します。



鳥獣被害を減らすためには、①近づきにくい環境をつくる「よせつけない」、②農地をしっかりと囲って守る「まもる」、③必要に応じて捕獲する「とる」の3つを組み合わせる進めることが基本です。どれか一つだけで解決するのではなく、地域の状況に合わせて、続けて取り組むことが大切です。



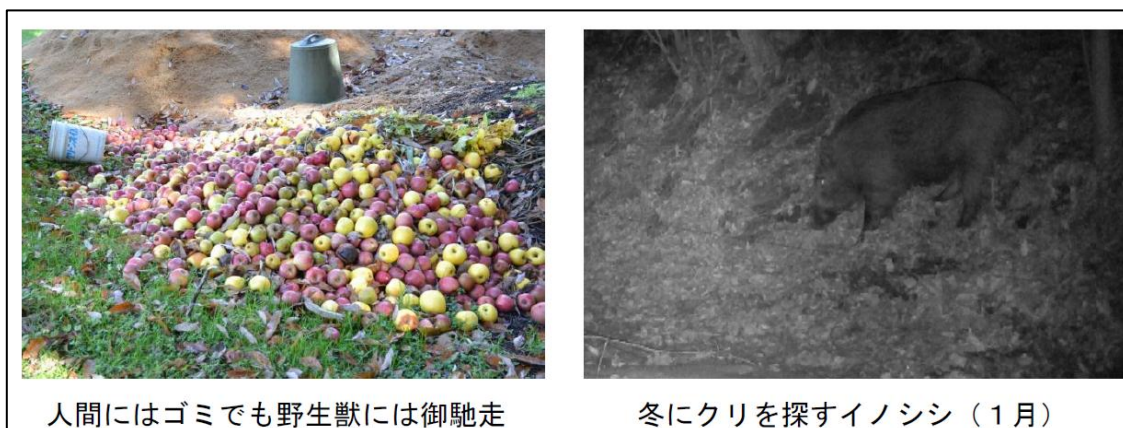
まず見直したいのは、鳥獣を人里や農地に近づけにくい環境づくりです。野生鳥獣は警戒心が強く、本来は明るく開けた場所を避ける習性があります。しかし、藪や雑草が伸びていると隠れ場所となり、田畑や集落に近づきやすくなります。そのため、農地や集落のまわりを刈り払い、見通しをよくしておくことが大切です。



藪から農地に近づくイノシシ

夏に急速に伸びるアレチウリ

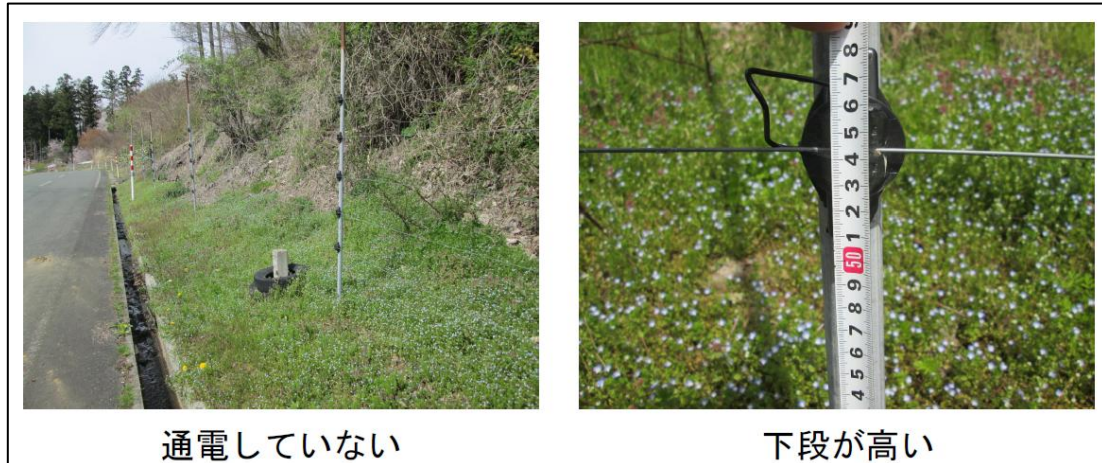
また、放任されたカキやクリ、収穫残渣、家庭や作業場まわりのゴミなどは、鳥獣を引き寄せる原因になります。こうしたものを減らし、地域を「エサ場」にしないことも重要です。近年は小屋や倉庫に侵入して農産物を食べる事例もあるため、倉庫や車庫の戸締まり、農機具や燃料の管理にも気をつけたいところです。



人間にはゴミでも野生獣には御馳走

冬にクリを探すイノシシ（1月）

次に大切なのが、農地をしっかりと守ることです。電気柵や金網柵などの侵入防止施設を適切に設置し、農作物をきちんと囲うことが、被害を防ぐうえで欠かせません。電気柵は立てて終わりではなく、草が触れていないか、きちんと通電しているかなど、日ごろの見回りや手入れを続けることで、はじめて十分な効果が期待できます。



捕獲も必要な取組ですが、それだけに頼っても十分ではありません。エサになるものがあり、入りやすい環境が残っていると、捕獲しても別の個体が入り、被害が繰り返されるおそれがあります。そのため、「とる」だけではなく、「よせつけない」「まもる」をあわせて進めることが大切です。

まずは、地域や農地のまわりを、できるところから一つずつ見直してみませんか。鳥獣被害防止は、地域をエサ場・隠れ場にしないこと、農地を守ること、必要な捕獲を行うことを組み合わせて進めるのが基本です。

【まず見直したい3つ】

- ① 藪や雑草が伸びて、野生獣の隠れ場所になっていないか。
- ② カキ・クリ・収穫残渣・ゴミなど、エサになるものを放置していないか。
- ③ 農地を守る柵がある場合、設置後の管理までできているか。

【次回予告】

今回は、現地でも要望の多い「電気柵の設置と維持管理のポイント」について紹介します。

電子メールを活用した農業情報のサービスを行っています

久慈農業改良普及センターでは、農作物技術情報、台風や気象災害などへの注意情報、病害虫に関する情報、スマート農業に関する情報などをタイムリーに入手することに役立つメール配信をしています。

ご自身のメールから ce0026@pref.iwate.jp (普及センター組織アドレス) まで「氏名」、「住所」、「電話番号」を送信していただければ、いつでも登録できます。登録すれば久慈農業改良普及センター(地域 ML)からだけでなく、県(県 ML)からも情報が配信されます。

【二次元コードからも申込みできます】

これまでに県から配信した内容は、次のような内容です。

- ・農作物技術情報(毎月、号外あり)
- ・農作物病害虫発生予察情報
- ・病害虫防除速報(水稻、野菜、果樹、花きなど)
- ・産地情報「産地紹介・人物紹介」(毎月)
- ・県からのお知らせ(イベント案内、研修会案内など)

今後も随時、情報発信していきますので、ぜひご利用ください。



～いわてアグリベンチャーネット掲載記事の紹介～

いわてアグリベンチャーネットでは、毎月、各地域の農業情報をお知らせしています。

【4～6月分の掲載記事】

- 産地・産直情報:《盛岡》ぐんぐん伸びる雫石町のりんどう
《二戸》TMRセンターを核とした酪農産地強化に向けた取組
《奥州》毎月6日はろくちゃんへ！金ヶ崎町六原「産直ろくちゃん」で出会う、地域の味と人の魅力
- 人物紹介:《八幡平》山本高斗さん 日本一のりんどう産地期待の若手生産者
《中部遠野》「常にアップデートを続ける農業を！」鈴木悠斗さん
《大船渡》「米茶屋やすみじかん」前田広輝さん
自慢のお米とこだわりのはちみつで地域に一息の安らぎを届けます

○『普及活動年報』 県内各地域の普及センターの取組を紹介します。

下記の URL、または右の二次元コードからご覧ください。

<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/index.html>



久慈農業改良普及センターFacebook 公開中！

久慈寒次郎が、最新の情報や、HOT な情報をお届けします。
下記の URL、または右の二次元コードからご覧ください。

<https://www.facebook.com/岩手県久慈農業改良普及センター-581601925540151/>

